

窓際の美しい美女

岡本 悠

中川にとって、もう恋など、どうでもよかった

ただ、美しいだけ

病院の診察を終えた、中川は、イスに座り、窓際のいつもの女性を探した

いない

あの、ダレノガレ明美のような、美しい顔立ち

いない

中川は、神になった

あの女も、神の作りもんだ

そう、考えると、しらけた

でも、美人は悪くない

なにせ、居心地がいい

もう、俺は、結婚しないんだ

恋人も作らないであろう

神が、そう、洗脳してくれることを願った

事実、そう思いたかったが、

神は、たまに嘘をつく

だから、信用がおけなかった

また、結婚願望が起こったら、終わりだ

でもさ、そう思ったら、それも正解かもな

俺は、神を信じるだけ

神として、生きていくだけ

全部、神の創造物なら、何の為に、他者はいるのか？

創造物と、結婚する気か？

それも、うまく、染められるのだろう

神の彩りに、染められるのだろう

正尚が、ステーキを運んできた

あの絵の、黒い男はなんだ？

あれも、神の仕業だろう

窓際のトットちゃんが、顔を出した

ああ、美しい顔！

そこまで、行きたい

俺は、見つめたが、

その子は、こっちを見つめることはなかった

これで、また、5週間は会えない

淡い、恋だった

じゃあ、あの銀行強盗のニュースも、全部作りものかい？

精密にできてるもんだな

俺は、もう、この尺度の考え方で、生きていかないといけない

いないんだ

いないんだ

いたとしても、神がやってくれる

じゃあ、俺っていったい...

俺は、無力だった

自分だけでは、何もできない

やがて、永遠に生きられる薬のようなものもできる

その時、仕事というものも、この世からなくなるのだ

だから、もう既に、そこに石を動かそう

中川は、空しかった

でもね、これからは、この世界で神が楽しませてくれるはずだ...

濃い、幸せをね

充実感とか

女はセックスのため

話なんて、もう、つまらない

でも、そのセックスすら、空しく感じた

濃い充実とはなんだろう？

俺は、既に、幸せの大船に乗っていた

だから、今も幸せ

このくらいが、幸せだと、昨日、神は言った

俺も、別に、これ以上を求めようとも、思わなかった

神に従うだけ

それ以外に、何ができる？

だって、俺、もう1人じゃ生きていけないことまで、わかったんだから

神頼みだよ

俺は、美味しいもん食うことに決めた

いい女性しか見ないことに決めた

無理して、ブスやババアを見ない

ケチケチしない

でも、自制心も大事だから

結局は、神任せにするんだ

今日の、弁当もね

感動はどこにいった？

それでも、さっき俺、本読んで泣いたよね

美人見てる時は、気持ちいいよね

で、それが、なんなんだ？

もう、考えたくなかった

細かいことはいいじゃない

神に任せればいいんだから

ただ、感情や味わいは、いただくかもしれない

中川は、メガネ屋で、手が震えた症状が気になった

そして、昨日、薬屋で、ツバをゴクリと呑み込んだ自分を恥じた

それも、含めて神だろう

神がすべてを知っているなら、それでいい

そこの確信だけが欲しいだけだ

テレビでは、ジュリアー 雪妃真矢のタイトルマッチがおこなわれていた

小説家もやめた

音楽家もやめた

詩人も、詩というものには、昨日、図書館で感激したけど...

何が、いい詩なのか？ という問いが疑問だった

皆も、神と共に、書いているのか？

古い、古すぎる



そうだ、父親にも、神のことを白状したことだし

神のことを語れる、仲間がいたらいいな

そんなことを、考えた

でも、戻るところ、全部、神の創造だ

まだ青い

青いというか、まだ知らないだけだ

これからの人生で、神が教えてくれるだろう

すべての、カラクリを

この小説を書いている時、充実があった

寝るのも大事だけど、やっぱり活動が大事だな

神だって、コンディションの悪い時は、寝不足とか、しょうがない、と言っていた

で、歌も小説も、誰にも聴かせないなら、何の為だろう

所詮、気晴らしか？

少し、府に落ちなかった

これから、どうやって生きていけばいいの？

神だ

答えは、神だった

だから、

神

また、窓際のトットちゃんを想った

キレイ、だから何？

ある程度、素直に言えた

綺麗な女を抱いたのは、1年前のひとみ、くらいだな

あのペチャパイを除いては...

ペチャパイが、俺の美学を壊した

もったいない！

中川は唸った

ダレノガレを抱く時は

来ないだろう

「完」